

「冷涼な気候とくらし」

長野県上田市立神科小学校 山浦和彦

はじめに

菅平高原は、夏の平均気温が19.6℃と涼しく、スイスの保養地ダボスにちなんで「日本ダボス」と命名されました。スポーツのメッカとしての歴史は古く、夏はラグビー、サッカーなど各種スポーツの合宿拠点として、冬はスキー、クロスカントリー、スノーボードなど多様に楽しめ、その歴史も大正時代にさかのぼるといわれています。



帝国書院『楽しく学ぶ 小学生の地図帳(最新版)』p.29

1. 標高1,300mのグラウンドにびびく歓声とさわやかな高原の汗

菅平高原では、年間約110万人を越す観光客が訪れています。しかし、近年スキー人口の減少や経済不況などから冬に訪れる観光客数は、減少の一途をたどっています。

一方、夏の観光客数も冬と同様に年々減り続けておりましたが、2000年(平成12年)を境に増える傾向を示しています。この増加のきっかけになったのが平成11年にオープンした多目的スポーツ施設「サニアパーク菅平」です。「サニアパーク」は、総面積18.5ha(330m×560m)という広大な敷地にラグビー、サッカー、アメフトなど多目的に利用できるグラウンドが5面、

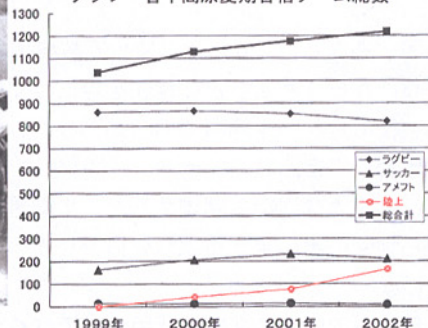
さらに全天候型400mトラックが8コース、芝生スタンド(4,000人収容の第3種公認陸上競技場)を有し、選手のコンディションを支える施設も充実した一大スポーツエリアです。標高1,300mという高地でのトレーニング効果や、天然芝のグラウンドで利用チーム間の練習試合が組みやすいこと、さらに宿泊すると施設利用料が半額になるなどが魅力となり、全国のスポーツチームから注目を集めるようになりました。夏期合宿チーム数(グラフ)の変化を見ても、陸上を中心に夏期合宿に菅平を選ぶチームが増えてきていることがわかります。なかでも、サッカーは地元の高校チームにも人気が高まってきています。

2. 全国に広がる交流の輪

和歌山県九度山町の小学生105人が2月15日菅平高原を訪れ、菅平小学校の児童とスキーを楽しみました。また、真田町と九度山町は、戦国時代に活躍した真田氏のゆかりの地であり、姉妹提携都市でもあります。



グラフ 菅平高原夏期合宿チーム総数



真田町では、このほか「自然に共感、文化に共感、菅平で共感」をキャッチフレーズに、「昔ながらの稲の手植え」「リンゴの花の摘果」「高原野菜の苗植えや収穫」体験やそのほか炭焼き体験など、さまざまな体験学習ができるプログラムを積極的に推進し、地元の豊かな自然のよさを有効に活用して交流の輪を広めようと、全国の学校に発信しています。

(参考資料)『真田町の観光の概況』(真田町役場観光課)、『なるほど上田小県百科』(郷土出版社)、『信濃毎日新聞』2月14日付記事